

地球電磁気・地球惑星圏学会

SOCIETY OF GEOMAGNETISM AND EARTH,
PLANETARY AND SPACE SCIENCES (SGEPSS)

<http://www.sgepss.org/sgepss/>

第 204 号 会 報 2010 年 7 月 16 日

目	次
第 127 回総会報告	1
会長挨拶 津田 敏隆	2
学会賞決定のお知らせ	3
田中館賞審査報告	3
第 25 期第 6 回運営委員会報告	4
評議員会報告	7
第 128 回総会・講演会関連情報	7
3 学会合同プラズマ宇宙物理セッション報告 杉山 徹・中村 匡	10
国際学術交流若手派遣報告 越田友則	12
分科会記事 グローバル地磁気観測分科会の閉会について 湯元 清文	13
宇宙天気研究会の閉会について 丸橋 克英	14
金星の科学分科会(金星研究サークル)活動報告 高橋幸弘、大月祥子	14
MUレーダー 25 周年記念国際シンポジウムの 案内 山本 衛	15
立教大学理学部教員公募	15
公募や行事のお知らせ	15
井上学術賞候補者の推挙について	17
東レ科学技術賞の推挙と東レ科学技術研究助成 の公募	17
国際学術交流若手派遣と国際学術交流外国人招 聘の公募	17
アンケート調査のお知らせとお願い 男女共同参画提言 WG	18
学会賞・国際交流事業関係年間スケジュール	19
SGEPSS カレンダー	19
賛助会員リスト	20

第 127 回総会報告

第 127 回総会は、幕張メッセ国際会議場において行われた日本地球惑星科学連合 2010 年大会(2010 年 5 月 23 ~ 28 日) 期間中の、5 月 26 日 12 時 30 分から 13 時 30 分まで 302 号室において開催された。出席者 120 名、委任状提出 156 名(うち電子委任状 130 通、はがき 26 通)の計 276 名(定足数 212 名)で成立した。

まず、津田敏隆会長による開会の辞の後、議長として村田功運営委員が議長に指名された。津田敏隆会長による挨拶(*本号に別途記事有り、以下同様)ののち、田中館賞授与式に移り、第 160 号が中村卓司会員に授与され、会長より審査報告(*)がなされた。

次いで、昨秋の学会における学生発表賞(オーロラメダル)受賞者(佐藤雅彦・佐藤隆雄・鈴

木秀彦・平健登・吉岡和夫・原田裕己・芝原光樹・西山尚典・徳永旭将の 9 名(敬称略)が表彰された。諸報告に移り、山本衛運営委員より前回総会以降に開催された第 25 期第 5 回・第 6 回運営委員会の報告がなされた(第 25 期第 6 回運営委員会については本号に別途記事有り、その他は前号の会報に掲載済み)。

更に最近の検討事項から、秋学会投稿システムと若手国際派遣に関して、個別の説明があった。今回の総会では議事はなかった。

最後に、今秋の総会・講演会(*)をお世話いただく(独)情報通信研究機構の石井守会員から、開催地(沖縄)の準備状況について紹介があった。

第 127 回総会議事次第

1. 開会の辞
2. 議長指名

3. 会長挨拶
4. 田中館賞授与
5. 田中館賞審査報告
6. 学生発表賞表彰
7. 諸報告
 - (1) 第25期第5回・第6回運営委員会報告
 - (2) 秋学会投稿システムについて
 - (3) 若手国際派遣について
8. 秋期学会開催地
9. 閉会の辞

(山本衛)

会長挨拶

津田 敏隆



第127回総会の冒頭にあたりご挨拶申し上げます。

まず、本学会会員の受賞に関するご報告を致します。柴田一成会員が、宇宙天気予報の基礎研究としての太陽活動現象の究明に貢献したことに対し、文部科学省・科学技術政策研究所(NISTEP)より「科学技術への顕著な貢献 2009(ナイスステップな研究者)」として表彰されました。

また、西田篤弘会員が、AOGS が新たに創設した Axford Medal の第1号受賞者に選ばれたと伺いました。授賞式は本年7月にインドのハイデラバードで開かれる第7回 AOGS2010 総会で行われます。会員の皆様とともにお慶び申し上げます。

地球惑星科学の特徴のひとつは大型計画の推進ですが、宇宙科学関連のプロジェクト成功に

関するうれしいニュースが宇宙航空研究開発機構(JAXA)の中村正人会員から入ってきました。宇宙科学研究所の金星探査機「あかつき」が5月21日朝に打ち上げられ、所定の軌道を飛行しており、既にクリティカル運用フェーズを終了し、探査機の状態が正常であるとのこと。年内に予定されている金星への接近で、新たな知見がもたらされることが期待されます。

一方、JAXAと情報通信研究機構(NICT)とが共同開発した超伝導サブミリ波リム放射サウンダ(JEM/SMILES)は、2009年9月11日に打ち上げられ、国際宇宙ステーション実験棟「きぼう」の船外実験プラットフォームに取り付けられ、10月12日から本格的に地球大気の観測を始めました。SMILESは地球大気から放出される微弱なサブミリ波帯の電磁波を超伝導センサで高感度測定し、オゾンをはじめとする大気微量成分の観測に成功しました。従来の衛星観測をしのぐSMILESの観測能力により、今後、科学的成果が次々に産み出されると期待されています。

ところで、2007年に企画を始めた、学会創立60周年記念誌をようやく出版することができました。ハードカバーで最終的には362ページの大部となっています。歌田久司前会長および石井守運営委員他のご尽力に感謝致します。

また、SGEPSS学校教育ワーキング・グループにより編集が進められていました、「太陽地球系科学」が京都大学学術出版会から刊行されました。本学会が進める研究テーマを広く理解して頂くことに大いに役立つと期待しています。中井仁会員をはじめ、執筆および査読を担当された会員諸氏にお礼申し上げます。

さて、学会を取り巻く状況についてかいつまんでお話しします。まず、皆様もご存知のように、現政権により事業仕分けが進められていますが、SGEPSSとしては、昨年12月末に関連事業について多くのpublic commentを提出しました。小さな声でしかないかもしれませんが、この積み重ねが流れを産み出すことを期待します。

例えば、現在進められています「最先端研究開発戦略的強化費補助金」には約300億円が充当されるそうですが、交付対象候補は、日本学術会議がコミュニティの意見をもとに選定した設備等が中心となると言われています。今後

も、本学会において会員各位のご意向を集約し、JpGUおよび学術会議を通じて政府の担当部署に届くよう努力したいと思います。

SGEPSSの春大会は、例年通りJpGU連合大会に参加しておりますが、SGEPSS会員が代議員の1/6を占め、JpGUの推進力の一翼となっていることは、大変心強いことです。さらに、5月に始まる新JpGU新執行部にもSGEPSS会員が含まれると噂されており、益々の貢献が求められています。【5月26日の午後に開かれたJpGU社員総会で、理事会(19名)に浜野洋三(副会長)、津田敏隆(副会長)、中村正人(企画)、大村善治(総務)、高橋幸弘、佐藤薫の6会員が参画することが決まった。】

JpGUはまだ立ち上げの状態では様々な変革が実施されつつあります。その一環として、JpGU会員登録システムが変更されました。それにとともに、今年度のSGEPSS秋学会の投稿システムにも影響が出る事が判明しました。詳しくは運営委員会からご案内しますが、会員各位に少々ご不便をおかけすることになります。当学会の投稿システムの改修をできるだけ早く進めますので、なにとぞご了承下さい。

また、JpGUでは国際学会誌を発行する企画が検討されています。EPS誌との関係が気になるところですが、既に昨秋の総会および会報202号でご報告しましたように、JpGUと参加学会が共存・共栄できる方策を探るべく調整を続けたいと考えています。

ところで、若手会員の海外渡航を支援する国際学術交流事業について、既にご連絡していることですが、再確認させていただきます。従来、旅費の一部支援としていましたが、今期より必要額の実費を精算する方式に変更しました。これにより、競争的資金等による追加がしにくい会員の要請にも対応できると思いますので、是非積極的にご応募下さい。

以上、皆様のご協力により今回の総会・講演会が大変充実したものになりましたことをお礼申し上げます。皆様には今後とも本学会のさらなる進展にご支援を賜りますようお願い申し上げます。

学会賞決定のお知らせ

5月24日に評議員会が開催され、長谷川・永田賞、大林奨励賞の受賞者と名誉会員が以下のように決定しました。授賞式は、秋季大会の総会において行なわれます。

(津田敏隆)

記

長谷川・永田賞
荒木 徹 会員

大林奨励賞

Huixin Liu 会員

研究題目：加速度計搭載衛星データを用いた熱圏・電離圏相互作用の研究

二穴喜文 会員

研究題目：高速中性粒子とプラズマ観測を用いた惑星超高層大気と衛星表面の特性に関する研究

陣 英克 会員

研究題目：領域間結合モデルを用いた地球および惑星電離圏の研究

名誉会員

若井 登 会員(故人)

田中館賞審査報告

第160号：中村卓司会員

論文名：光学・電波協同観測による大気波動の励起・伝搬・砕波の研究

中村卓司会員は、中層大気における大気重力波の励起、伝搬、砕波、さらに大気乱流生成に関する力学過程を、レーダー観測と大気光イメージャなどを組み合わせた電波・光学協同観測により定量的に明らかにし、中層大気力学の研究の発展に大きな功績をあげている。

中村会員は、レーダーによる中層大気の大気波動、とくに大気重力波や大気潮汐波の研究の過程で、従来の電波観測に加えて光学観測を協

同で実施する意義を認識し、両者を相補的に用いることで、中間圏・下部熱圏現象の理解を深めた。

1. 大気光イメージャによる長期観測を 1996 年から信楽観測所で実施し、高度 90km 付近の大気重力波について、定点で 1 年以上のイメージング観測を行い、その季節変化と伝搬特性を初めて明らかにした。中層大気平均風による重力波のフィルタ効果を示すとともに、リップルと呼ばれる小規模の波状構造は、その伝搬方向に偏りがなく、中間圏以高で発生する局所的な現象であることを示した。1995 年には、0H 大気光イメージャの動画で、大気波動の振幅が大きくなり、乱流を生成する現象が捉えられた。MU レーダーによる流星風観測から風速の水平・鉛直の 3 次元分布を求めたところ、碎波に伴って大きな水平風速の水平勾配があることを発見し、大気波動と平均風の相互作用の詳細を議論した。

2. さらに、電離圏 E 層中の FAI (沿磁力線不規則構造) の準周期構造 (QP) の成因をさぐるロケットおよび地上観測のキャンペーン「SEEK」において、大気光イメージャ観測に加えて、MU レーダー観測による水平風速プロファイルを用いて重力波の電離圏への伝搬を議論した。南西方向に伝搬する FAI に対して、その方向に伝搬する重力波がほとんどないことを示し、重力波が FAI のトリガになるという説を否定する議論を展開した。

3. 海外観測では、温度や風速も計測できるコロラド州立大の高性能のナトリウム温度風速ライダーと 0H 全天大気光イメージャの同時観測を 2003 年に米国コロラド州で開始し、大気光中のリップル構造が大気安定度の小さい領域に見られることを示した。また、2000 年に赤道域インドネシア・ジャワ島に 0H 大気光イメージャを設置し 1 年半のデータから南向きの伝搬が主であることを示し、衛星画像と組み合わせ、熱帯の積雲対流の重力波励起源としての重要性を示した。

4. また、インドネシア、日本、ブラジルなどのイメージャ観測データをもとに、背景風速と温度場を考慮して大気波動の逆レイトレーシングを行い、低緯度では積雲対流が励起源として重要であること、また中低緯度夏季のダクトによる水平遠方への伝搬など、波動励

起と伝搬に関する新知見を得た。また、コロラドでの観測からも、積雲対流活動から発生する重力波が中層大気弱風時に励起源直上に伝搬することを示した。

このように、中村会員は信楽 MU 観測所における全国共同利用を中心とした幅広い研究活動を通じて、中層大気に関するレーダー観測と光学観測のコミュニティの交流を促進し、協同観測研究を推進した。国際的には、SCOSTEP の PSMOS (中間圏界面国際協同観測システム) プロジェクトにおいて、電波・光学複合観測を基礎にいくつかの重要な研究成果をあげた。

これらの研究は、中層大気力学の研究課題の追求にとどまらず、広く関連分野の研究発展に貢献すると高く評価されることから、本学会は中村会員に田中館賞を授与する。

(津田敏隆)

第 25 期第 6 回運営委員会報告

日時：2010 年 5 月 23 日 (日) 17:00-21:00
場所：地球惑星科学連合大会会場 (幕張メッセ、203 室)

出席者 17 名 (定足数 11 名)：津田敏隆会長、家森俊彦副会長、阿部琢美、石井守、小田啓邦、河野英昭、齋藤昭則、坂野井和代、塩川和夫、篠原育、堤雅基、長妻努、畠山唯達、村田功、山本衛、清水久芳、木戸ゆかり

欠席者 1 名：吉川一朗

議事

1. 前回議事録の確認 (第 25 期第 5 回運営委員会)
・確認の後、承認された。

2. 協賛・共催関係 (清水)

下記の協賛を承認した。

行事名：日本流体力学会 年会 2010

開催期日：2010 年 9 月 9-11 日

開催場所：北海道大学

主催：日本流体力学会

3. 入退会審査 (清水)

(1) 入会 8 名申請 (すべて学生) があり、全員入会が承認された。

正会員 (学生)：野村麗子 (所属：名古屋大学、

紹介会員：塩川和夫・大塚雄一)

正会員 (学生)：徳永旭将 (九州大学、湯元清文・吉川顕正)

正会員 (学生)：原田裕己 (京都大学、町田忍・家森俊彦)

正会員 (学生)：浅見智子 (京都大学、石川尚人・林田明)

正会員 (学生)：五井 紫 (京都大学、家森俊彦・寺本万里子)

正会員 (学生)：最上巴恵 (神戸大学、乙藤洋一郎・山口覚)

正会員 (学生)：佐藤雅彦 (東京工業大学、綱川秀夫・高橋太)

正会員 (学生)：上田哲士 (神戸大学、山口覚・乙藤洋一郎)

(2) 退会 4名の退会 (藤縄幸雄、野上謙一、白井嘉哉、天野一男)、会費滞納により3名の強制退会 (升本眞二、趙国澤、大島弘光) が承認された。

4. 会計関係 (阿部)

- ・会計報告のまとめは次回。
- ・会計監査委員会の任期2年。品川裕之会員、橋本武志会員にもう一年お願いします。
- ・会費滞納者：3年以上滞納の方に勧告を行う。

5. 学会賞関係 (山本)

- ・長谷川・永田賞、名誉会員の推薦の情報交換をおこなった。
- ・学会としてコミュニティを広げるような賞があっても良いのではないか。例えば衛星技術開発、計算機科学、衛星環境、掘削、など、学会周辺領域の方を表彰する。そういった賞を検討するWGを作って、具体的なことを相談する。WG委員として以下の会員を評議員会に推薦：津田敏隆、家森俊彦、山本衛、篠原育、小田啓邦、長妻努、歌田久司。

6. 助成関係

6-1. 若手国際派遣について (山本)

- ・堀久美子会員の申請 (SEDI 参加) を採択した。金額は、申請された額を認めることにする。
- ・AP-RASC 会議に関して、海外からの招聘の申請が1件あったが、AP-RASC はSGEPSS が主催／共催する研究集会ではないので、この申請は受け付けられないと回答する。

- ・この制度では、減額した額ではなく必要額を認めるように変更したことを総会などで宣伝する。

6-2. 国際学術研究集会等への補助 (山本)

- ・申請課題：5th Alfvén conference on plasma interaction with non-magnetized planets/moons and its influence on planetary evolution：30万円の補助を決定した。

6-3. 日本学術振興会賞の推薦

- ・1件の推薦状を出した。

6-4. その他

- ・井上學術賞、東レ科学技術賞、猿橋賞、山田科学振興財団などが今後、推薦の機会がある。

7. 秋学会関係

7-1. 特別セッションの提案：「SGEPSSにおける最新の月科学」の提案あり。タイトル／文面をより広がりがある形にするように修正して採択。秋学会投稿〆切予定は7月30日(金)。

7-2. 秋学会の投稿システムについて

- ・JpGU 連合大会のデータベース・投稿システムが全面的に改変されたために、昨年度までの秋学会投稿システムの使用ができなくなった。
- ・JpGU 連合大会のデータベースを利用する案 (第1案、150-200万円) か、昨年度と同じ投稿システム+データベース新規作成 (第2案、約40万円) の2つの案がある。
- ・JpGUは、なるべく傘下学協会に使ってもらいたい、ということでもとまっている。JpGUと情報を共有しながら進めれば、うまくいくのではないか。
- ・JpGUのシステムを使っている学会は他にはない。JpGUでは、SGEPSSをテストケースとして、うまく進めたいのではないか。
- ・年間のrunning costは100万円 (CD作成も含む)。
- ・今回はJpGUに合わせるにはタイミングが悪い。JpGUのシステム改変が終わってからJpGUにあわせた方が良いかもしれない。
- ・200万円という額は、1ヶ月でシステム改変するので時間がない、という理由で言われているが根拠が不明。非常に高いという印象がある。
- ・JpGUが新しく作った登録IDは、お金を払った人しか入っていないはず。昔のデータベース

は JCOM/JpGU からは提供してもらえないだろう。

- JpGU の新システムの完成は 6 月以降。英語ページが遅れている。今回、SGEPSS の依頼は、英語ページは含んでいない。
- 第 2 案を採用したら、第 1 案 (JpGU) に戻る場合はまた 150-200 万円がかかる。でも来年度以降に第 1 案に戻るなら時間の余裕があるので、もっと安くなる可能性はないか。
- 第 2 案なら JpGU のシステム移行に対する時間稼ぎと、SGEPSS ですべてコントロールできる、というメリットがあるが、コントロールするための運営委員の作業が増えるだろう。第 1 案は、より手間の少ない方向である。
- JpGU (JTBCOM; 旧 JCOM) のシステムはまだ不安定で、今後も改修が必要な可能性が高い。そういう状態で JpGU の新システムに移行すると、今後も予算がかかる可能性がある。
- 結論：今回の秋学会は第 2 案で行くことを、次回の総会 (5 月 26 日) に提案する。これは緊急避難の措置とし、JpGU 側で準備ができた状態になったら第 1 案に移行する、という方針で今後も JpGU や JTBCOM と交渉を続ける。

7-3. 秋学会 LOC の状況 (石井)

- 会場は決定済。会場が狭いので隣接する別の会議場を使うめどがついた。プログラムが固まり次第、現地で会場担当と打ち合わせをする。
- 空港からも「ゆいレール」で、10 分でいける。国際通りにも近い。
- ホテルはすでに一部混雑が始まっている。

7-4. 平成 23 年度秋学会の検討

- 近年、秋学会を実施していない地方の大学などで検討する。

8. アウトリーチ関係 (長妻)

- 科研費 100 万円が内定
- 秋学会の会場近くの「久茂地公民館」でアウトリーチイベントを開催。学会前日の土曜日に開催。
- 衛星設計コンテストの審査委員 (任期 2 年) を遠山会員 (東海大) から國分会員に移行。
- 「若手のアウトリーチ」：大学院生や PD で出前授業をやる提案が出ている。大学のアウトリー

チなどで経験し、希望者が多い。学会のアウトリーチ部会の活動として行うとともに、若手の運営委員で実行する。活動を行った若手は実績になるようにする。学生が旅費などを負担しなければならない場合は、学会として補助をしていく。研究活動に支障をきたさないように指導教員の許可証をとるとともに、保険に加入する。(坂野井)

- 第 4 紀学会のシンポジウムのアウトリーチ会合 (8 月) で SGEPSS に関連した発表を行う (畠山)。

9. 男女共同参画関係

- 例年通り、秋学会の託児所を手配中。(木戸)
- SGEPSS の PD の人数の把握を行う。(坂野井)
- JpGU の男女共同参画委員会の副委員長は、坂野井会員がもう 1 年継続することになった(坂野井)。

10. Web・メーリングリスト関係 (堤)

- 細かな修正を随時行っている。

11. EPS 関係報告 (齋藤)

- 出版助成科研費 820 万円 (昨年は 1050 万円) が単年度で採択された。年々減らされている。テラパブが落札。テラパブとは、科研費がなくなる可能性も含めて相談している。JpGU との関係は、引き続き関係者と意見交換する。
- EPS のオープンアクセスについて、特集号をオープンアクセスにする方向で議論を進めている。
- JpGU は、雑誌を作る方向で動いている。来年の JpGU の国際セッションで発表された内容をプロシーディングの形で出して、最終的には、E-letter の形にしていきたい。(石井)

12. 広報 (河野)

- 次回の広報 (秋学会の案内含む) は、6 月 23 日〆切、7 月 16 日発行。

13. 分科会について (河野、山本)

- グローバル地磁気観測分科会：関係者で相談したが、閉会の方向である。
- 金星の科学分科会：惑星一般の研究者を集めて「惑星研究サークル」という名前で会合を持っている。今後の名称なども含めて相談し、

次回の会報で報告する。

- 宇宙天気分科会：関連分野の研究者が集まるのは JpGU の宇宙天気セッションなどがあるので、特に分科会がなくても良い。ということで分科会を閉会する。
- 閉会する分科会に関しては、短くてもよいので、発展的に閉会する趣旨を会報に書いてもらうようにする。

1 4. その他

- 60 周年記念誌は、売れ残りは 8 冊。うち 5 冊を JpGU で売る。学会としては 15 冊を保有。うち 2 冊は国会図書館に送付。(山本)
- JpGU の教育問題委員会の委員の交代に関して、次の運営委員会で決める。

1 5. 次回運営委員会などの日程について

- 7 月末ごろに開催の予定。

(塩川和夫)

(2) 長谷川・永田賞

- 選考方法について確認を行った後、長谷川・永田賞受賞候補者選考委員会から候補者の選考結果が報告された。議論の結果、委員会からの結論どおり、授与を決定した。

(3) 名誉会員

- 1 件の推薦 (故人) について会長から理由説明があった。議論の結果、授与を決定した。

(4) 学生発表賞

- 総務から選考状況と授与予定者が報告され、全件が了承された。

3. その他

- 本年度の秋学会の電子投稿システムについて、運営委員会で検討の結果、昨年度と同じシステムを利用するとの結論を得たことが報告され了承された。
- 会長より、新しい学会賞を作ってはどうかとの提案があった。現在の学会賞との関係を考慮して議論を進めるべきとされた。検討のためのワーキンググループを立ち上げることとされ、委員を選定した。

(津田敏隆)

評議員会報告

日時：平成 22 年 5 月 24 日 (月) 18:15 - 20:15

会場：幕張メッセ国際会議場 201A 号室

出席者 (敬称略)：津田敏隆、家森俊彦、歌田久司、藤井良一、中村正人、深尾昌一郎、浜野洋三、湯元清文、小野高幸、山崎俊嗣

欠席者 (敬称略)：本蔵義守、渡部重十

1. 報告

- 運営委員会 (第 25 期第 5 回・第 6 回) について報告があった。
- SGPSS60 周年記念出版について報告があった。本年 1 月に完成し、希望者へ領布した。また大学・研究機関への領布を進めたところ、残部は少なくなっている。国立国会図書館へ 2 冊を寄贈した。
- 学校教育 WG が執筆された「宇宙地球系科学」が京都大学学術出版会から発行されたことが報告された。

2. 学会賞審議

(1) 大林奨励賞

- 大林奨励賞候補者推薦委員会から選考の経緯と推薦者について報告があった。議論の結果、推薦通り 3 名への授与を決定した。

第 128 回総会・講演会 (2010 年秋学会) 関連情報

第 128 回 SGPSS 総会および講演会の開催期間は、2010 年 10 月 30 日 (土) から 11 月 3 日 (水) となります。10 月 30 日 (土) は、久茂地公民館にて一般向け講演会および展示のみ行われます。総会および特別セッション・レギュラーセッションは、10 月 31 日 (日) から 11 月 3 日 (水) にかけて、沖縄県市町村自治会館にて行われます。今回は、特別セッション 1 件、レギュラーセッション 8 件の構成です。

【セッション概要】

1. 特別セッション

- S01: SGPSS における最新の月科学:「かぐや」から次の時代へ (Lunar science in SGPSS after the SELENE mission)

[西野真木 (宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所)、笠原禎也 (金沢大学総合メディア基盤センター)、熊本篤志 (東北大学大学院理学研究科)、

綱川秀夫（東京工業大学理工学研究科）、齋藤義文（宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所）]

SGEPSSにおける最新の月科学に関する講演を分野横断的に行なう。月周回衛星「かぐや」は一年半にわたった観測を終え、SGEPSSに多くの新たな知見を提供しつつあるが、特に月表面の性質と宇宙プラズマの相互作用が現象の鍵となっていることが分かってきた。そこで今回、SGEPSS分野の月科学の成果（宇宙プラズマに加え、月の古磁気、表面物質、表面磁場を含む）をすべて集めた特別セッションを開催し、総合的な議論を行なう。予定される主な内容は、プラズマ粒子・波動・磁場・電波の観測、月ダイナモ、磁気異常、月表面アルベド、および、これらの相互作用などである。また、「かぐや」等の衛星による観測だけでなく、関連するシミュレーション研究や理論研究、他の固体惑星との比較研究による講演も歓迎する。

2. レギュラーセッション

● A03: 地球・惑星内部電磁気学（電気伝導度、地殻活動電磁気学）

(Solid Earth Electromagnetism)

[市原寛（海洋研究開発機構）、山谷祐介（北海道大学大学院理学研究院附属地震火山研究観測センター）]

地球・惑星内部電磁気学に関する、実験、観測、理論、シミュレーションなどに基づいた研究の発表と議論を行う。地下比抵抗構造、磁気異常、自然電位異常、地震活動域・火山地域・海洋域での地殻活動・海流等による電磁場の励起に関連する諸現象、室内実験、観測技術・装置、データ解析手法、解析的・数値的計算手法などがこのセッションで扱われる具体的な内容である。特に学生・若手研究者の意欲的な研究発表や観測提案を歓迎する。

● A04: 地磁気・古地磁気・岩石磁気

(Geomagnetism/Paleomagnetism/Rock Magnetism)

[望月伸竜（熊本大学大学院先端機構）、畠山唯達（岡山理科大学情報処理センター）]

本セッションでは、地磁気・古地磁気・岩石磁気に関する研究発表と議論を行います。たとえば、地球・惑星磁場の起源・変動に関する観測・理論・数値実験、テクトニクス、環境変動、

地質試料や隕石の磁気特性、地球・月・惑星の磁気異常、考古地磁気、などの研究が挙げられますが、分野横断的な研究も歓迎します。

● B05: 大気圏・電離圏

(Atmosphere/Ionosphere)

[齊藤昭則（京都大学大学院理学研究科）、江尻省（国立極地研究所）]

地表近くの大気から電離圏までの広い領域における力学・化学・輸送・電磁力学・放電・電離など諸現象の研究を対象とする。地表及び衛星からの観測、データ解析、理論、シミュレーションのみならず、観測技術の話題も歓迎する。大気圏と電離圏を合同のセッションとしているが、これにより境界領域の研究の活発化、例えば、地球大気の上下相互作用に関する理解が深まることを期待する。

● B06: 磁気圏 (Magnetosphere)

[三好由純（名古屋大学太陽地球環境研究所）、能勢正仁（京都大学大学院理学研究科附属地磁気世界資料解析センター）]

磁気圏の構造とダイナミクス、太陽風-磁気圏相互作用、オーロラ現象を含む電離圏-磁気圏結合過程、さらには磁気嵐やサブストームを含む変動現象などのさまざまな問題について、人工衛星や地上からの観測、理論、シミュレーション、モデリングにより得られた最新の結果を議論する。また、関連する観測・シミュレーション・モデリング等の技術開発、将来ミッションについての講演も歓迎する。

● B07: 太陽圏 (Heliosphere)

[中川朋子（東北工業大学工学部情報通信工学科）、徳丸宗利（名古屋大学太陽地球環境研究所）]

太陽と太陽風によって形作られる太陽圏と、その中に生起するさまざまな現象についての研究発表を募集する。太陽風の加速過程の研究を始め、ダイナミックな太陽活動に対するコロナルマスイジェクション (CME) や惑星間空間衝撃波などの太陽圏の応答、惑星間空間の磁場や太陽風の構造、ヘリオポーズ・ターミネーションショック等の太陽圏全体構造、それを取り巻く星間物質 (LISM) の研究、宇宙線などの高エネルギー粒子の物理についての研究報告を幅広く募集する。惑星磁気圏へのエネルギーインプツ

トとしての太陽風や、そこに生起する波動現象等も含め、幅広いトピックについての発表を歓迎する。

● B08: 宇宙プラズマ理論・シミュレーション (Space Plasma Theory/Simulation)

[杉山 徹 (海洋研究開発機構)、中村 匡 (福井県立大学)、梅田 隆行 (名古屋大学太陽地球環境研究所)]

本セッションでは磁気圏・惑星圏・太陽圏のみならず、広く天体现象に及ぶ天体宇宙プラズマ環境に生起する様々な物理現象に関する理論・シミュレーション・モデリング研究の議論の場を提供する。宇宙プラズマシミュレーションに関する新しい手法、計算機技術、プロジェクトなどに関するトピック、および研究背景となる観測データの紹介や新しい現象の発見などの講演を歓迎する。また、宇宙飛行体環境や宇宙環境計測・利用に関連する理工学的な理論・シミュレーション研究についても扱う。

● B09: 惑星圏 (Planets)

[関 華奈子 (名古屋大学太陽地球環境研究所)、今村 剛 (宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所)、笠羽康正 (東北大学大学院理学研究科)、高橋芳幸 (神戸大学大学院理学研究科)、土屋史紀 (東北大学大学院理学研究科)]

惑星周辺から地表に至るプラズマ・大気・表層環境を包含する「惑星圏」に関する研究発表、および、飛行体による太陽系探査の統合的な講演・議論の場を提供する。本セッションでは、観測・データ解析・数値実験・観測機器開発等に関わる研究成果や、月周回機「かぐや」・金星探査機「あかつき」などの太陽系探査の成果・進捗・計画に関する講演を、幅広く募集する。また、惑星の表層・内部、彗星等の小天体、系外惑星に関する研究、および、将来の惑星圏研究を見据えた新しい地上・軌道上観測手段、数値シミュレーション等の技術の開発に関する報告も歓迎する。

● B10: 宇宙天気・宇宙気候～観測、シミュレーション、その融合 (Space Weather/Climate)

[河野英昭 (九州大学大学院理学研究院)、西谷望 (名古屋大学太陽地球環境研究所)、長妻努 ((独) 情報通信研究機構)]

太陽-地球システムの変動を予報するアルゴリズムの構築に向けて、シミュレーションと観測を行う研究者が一同に会し発表・議論を行う。マクロシミュレーション科学は、太陽-地球システムのグローバルな構造・状態変化を自己無撞着に再現する手法を提供する。一方、太陽から地球超高層大気までの各領域の観測は、グローバルな宇宙天気マップの構築を可能とするとともに、シミュレーション結果を検証する。太陽-地球システム変動の予報の実現の為には、シミュレーションと観測の連携が必須である。また、太陽-地球システムの長期変動 (宇宙気候) について、過去数百年の太陽や地磁気の観測データ、過去数千年から数万年に亘る宇宙線や氷床などのデータ解析の成果を議論し、今後の宇宙気候シミュレーションの方向を見出す。

【講演申し込み方法】

投稿は電子投稿のみになります。先日の総会でお知らせいたしましたように本年度は昨年度と異なり、秋季講演会独自の個人 ID を用いた WWW による電子投稿となります。そのため、昨年まで用いていた著者 ID は全て無効です。全ての著者を新たにデータベースに登録する必要があります。ご注意ください。

[1] 投稿規定

- *筆頭著者一名につき、口頭発表一件、ポスター発表一件まで講演申込みを受付けます。2件投稿される場合は、必ず発表形式を、一件は口頭、一件はポスターとしてください。
- *但し、「特別セッションでの講演者」と「レギュラーセッションでの招待講演者」については以下の取り扱いをします。
- ・「特別セッションでの講演者」：特別セッションでの口頭発表に加え、レギュラーセッションでの口頭発表も可能です。
- ・「レギュラーセッションでの招待講演者」：招待講演を行うセッション以外のセッションにて口頭発表をしていただけます。
- *非会員のみによる発表は受け付けません (但し、特別セッションと招待講演は別枠です)。
- *プログラム編成の都合上、実際の発表形式 (口頭/ポスター) が希望通りにならないことがあります。予めご了承下さい。

[2] 投稿方法

予稿投稿の受付は、7月5日(月)午後1時

から開始しています。WWWを利用した投稿は、本学会ホームページの「総会・講演会」ページの「投稿サイトはこちら」のリンク先からお願いいたします。

<http://www.sgepss.org/sgepss/soukai2010fall.html>

【締め切り】

- 予稿原稿の申込み締め切りは、7月30日（金）午後5時と致します。FAX、電話、メール等による遅延の依頼は一切受けられません。
- 総会議題の申込は、9月1日（水）迄に会長宛に書面でお願い致します。

【問い合わせ先】

秋学会担当運営委員：篠原育、小田啓邦、河野英昭、山本衛 (sgps10fall@sprg.isas.jaxa.jp) 尚、秋学会に関する現地情報は、秋学会LOCのホームページをご覧ください。

<http://www.seg.nict.go.jp/sgepss2010/>
(篠原育、小田啓邦、河野英昭、山本衛)

3 学会合同プラズマ宇宙物理 セッション報告 杉山 徹・中村 匡

SGEPSS・日本天文学会・日本物理学会の3学会が合同で行う「3学会合同プラズマ宇宙物理セッション」が、日本地球惑星科学連合2010年大会期間中の5月23日～27日の5日間で開催されました。5回目となる今回は、SGEPSSがホストとなり、世話人として杉山徹（代表）と中村匡が担当しました。総発表件数は、口頭・ポスターを合わせて169件でした（口頭107件、ポスター62件）。今回は、第2回（2006年5月・SGEPSS主催）開催時に行いました天文学会員・物理学会員の参加資格・参加費についての特別処置を今回は行わず、日本地球惑星科学連合会員と同じ扱いとしたため、両学会会員の参加費は第2回時よりかなり高額になりました。しかし、第2回の総発表件数185件よりは多少減少しましたが、前回の第4回（2008年3月・物理学会主催）の151件よりは増加しました。当初、プラズマ科学に関連した主とし

て国内の研究者が議論できる場を提供することを目的として企画しましたが、海外からの講演者も招待しチュートリアル講演をしていただきました。米国における学際研究に関する話題の提供に、国内での同様な企画の必要性が感じられました。開催期間に関しては、当初、これまで通りの4日間を予定しておりましたが、チュートリアル講演の時間を長めに設定したことと、より多くの方に口頭発表をして頂くことを考慮して、5日間になりました。しかし、本セッション単独での開催では無いため、他のセッションとの重複が問題となりました。

今後の課題について、議論されている点の一部を以下に報告します。

これまでは、各学会から参加している世話人は、ボランティア活動でありましたが、今後は本セッションの運営委員会などを設立し、よりオフィシャルな会となるようにしてはどうかという意見が出されています。世話人の負担分散のためにも有効と思われ、また、サブセッションの決め方やチュートリアルセッションの内容についても、統一的な企画が可能となると思われれます。

また、現在、本合同セッションを各学会期間内に行っており、レギュラーセッションとパラレルセッションとなっています。さらなる交流を図るためには、レギュラーセッションとテーマが近い場合には、各学会のレギュラーセッションとジョイントさせた開催にすると効果的ではないかと提案されています。

今回の6回をもって、各学会のホスト開催の2順目が終了するため、今後の開催に関しての打ち合わせが必要という見解となりました。参加学会を増やすことや開催頻度など、各学会内で議論を始めることが確認されました。

最後に、次回開催についてご案内します。松元亮治 天文学会世話人代表より、次回は天文学会がホストになり、2012年3月下旬に開催する予定であることが報告されています。場所は京都大学を予定されています。

各サブセッションの発表件数と、セッションリーダーからの報告を以下に記載します。

「チュートリアル」	7
「粒子加速・加熱・相対論」	23

「乱流・輸送・非線形現象」	19
「MHD現象・構造形成」	28
「プラズマ・中性粒子相互作用」	15
「理論・シミュレーション技法」	20
「観測・計測・新技術」	30
「宇宙天気・太陽風・磁気圏構造」	27

・チュートリアルセッション

各学会・分野の紹介を目的として、第5回では、チュートリアルセッションを復活させた。会を重ねる毎に新鮮味が無くなる懸念があり、全体的なチュートリアルセッションを毎回行わなくなっていた。しかし、今回の講演を通して、やはり、その有意義な点が確認された。また、学生を含め、毎回、初めて本合同セッションに参加される人がいる事を考慮すると、多少、以前の内容と重なった講演となっても問題ないと思われる。この事は、参加者からの声としても聞いている。

今回は、SGEPSSが担当学会であったこともあり、講演数は、SGEPSS会員から3件（三好由純氏、篠原育氏、斎藤義文氏）と多くし、天文学会員が2件・物理学会員が1件とした。さらに、複数の学協会が合同してプラズマ物理の発展を議論する場としての海外（U.S.A）の例を紹介する講演を1件含めた。今後、国内での同様な活動を行う際に参考になるであろう。また、本合同セッションが将来的にその役を担える事ができるであろうか。検討する価値がある。

・粒子加速・加熱・相対論（文：坪内 健）

本セッションでは、keVスケールの太陽風プラズマから 10^{20} eV の宇宙線に至る極めて広いダイナミックレンジを持つ宇宙プラズマの高エネルギー現象について、その物理メカニズムに関する情報を異分野間で共有し、総合的に理解することを目指した。3件の招待講演では、最新の天文衛星による観測に基づいた超新星残骸における粒子加速、高強度レーザー実験による衝撃波加速の検証、放射線帯における波動粒子相互作用を通じた相対論的電子加速シミュレーション、と観測事実の発見・実験による検証・理論による解明それぞれのアプローチが紹介された。また他の講演も通じて、粒子加速が衝撃波のみならず、波動や磁気リコネクション、雷雲などでも見られることから、この現象の多様性を改めて確

認することができた。全23講演（口頭15、ポスター8）中、理論・シミュレーション関連が16件、観測研究が5件、実験が2件であった。特に実験は講演数こそ少なかったとはいえ、加速原理の解明においてその高い再現性を活かした今後の発展が大いに期待できるものである。天文観測からは、衝撃波の非線形加速効果による磁場増幅の証拠を直接捉えた成果を始め、新たなメカニズムを要請する最新の解析結果が紹介された。理論面では特に、莫大な計算機資源を活用した大規模シミュレーションが今後より現実的なパラメータによる検証を進める上で決定的なツールである認識を深められた。

・乱流・輸送・非線形現象（文：成行 泰裕）

招待講演は主に太陽風に関してまとめた。一般講演はテーマが大きいのでまとめ難かったためか、天文関係の講演数が伸び悩んだ。反対に物理学会関係の講演は多く、一部講演は口頭からポスターや他セッション枠にまわっていただいたが、それでも口頭発表の約半数が物理学会関係になった。一方で、口頭発表・ポスター発表共に聴講者の数は大変多く、テーマ自体への関心の高さを伺わせた。また、今回は地球コア乱流の講演も1件あった。本セッションテーマは他テーマに比べるとプラズマの枠を超えたより学際的な学术交流に向いており、今後の発展の1つの方向としてホスト学会のレギュラーセッションとの共催（物理学会では領域11との連携、天文学会では星間現象・太陽セッションなどとの積極的な融合）が考えられる。

・MHD現象・構造形成（文：深沢 圭一郎）

本セッションでは、期せずして磁気リコネクションが大きな議論のテーマとなり、多くの発表者がこの問題を取り上げた。理論関連では、リコネクションの高解像度シミュレーション技法の有用性や、円柱プラズマでの抵抗性安定性解析理論の進展について議論がなされた。また、実験室プラズマに関しては、リコネクションの積極的な活用を目指した研究と、自発的不安定性によるリコネクションを低減する研究とがそれぞれ紹介され、両者の対比が興味深かった。リコネクションは、実験室プラズマ、地球磁気圏、太陽、天体プラズマの共通の現象であり、現象の理解を共有する

ことで新しく分かることもあるとの認識も得られた。一方、MHD 乱流も研究対象を選ばず現在重要、注目されている現象であり、リコネクションと同様の発展が期待される議論がなされた。

- プラズマ・中性粒子相互作用 (文: 磯部 洋明)
本セッションでは天文分野から 2 件、地球・惑星分野から 4 件、物理 (実験) 分野から 4 件の口頭講演があった。物理的には弱電離プラズマにおけるプラズマ-中性粒子相互作用 (太陽彩層、電離圏など) とダストプラズマ (惑星形成、土星磁気圏、衝突実験など) に大別された。惑星形成領域におけるダストの合体成長と実験室での衝突実験や、天体プラズマにおける雷発生の可能性などで分野横断的な興味深い議論があった。しかし、例えば無衝突プラズマや MHD などの基礎物理過程に根ざした分野間の交流・比較が進んでいるセッションに比べ、まだ個々の分野に固有の現象論的理解の段階で壁があり、共通のプラズマ物理という観点から分野間横断的な議論を行う素地が育っていないと感じた。逆に言えばプラズマ合同セッションで今後積極的に取り上げるべきフロンティアであり、チュートリアルやレビュー講演を充実させるのが次回以降の課題である。
- 理論・シミュレーション技法 (文: 加藤 雄人)
最新の計算結果から計算手法に至るまで、幅広い講演が行われた。6 件の招待講演は主にマイクロ現象でまとめ、運動論的コードによるシミュレーション結果や並列計算手法に関する研究成果が発表された。サブセッション内でテーマを設定した形となったが、これにより MHD 現象・構造形成セッションとの差別化がうまくいっていた。
- 観測・計測・新技術 (文: 高島 健)
KAGUYA が見た月周辺プラズマ観測結果や ISS 搭載 MAXI による全天 X 線観測結果など最新の観測成果を得た計測技術の発表が行われた。実験室プラズマ関連では、X 線分光計測に関する最新の計測結果や電磁パルス・レーザーを用いた惑星内部に関する実験結果等が示され活発な議論がなされた。将来計画については、X 線天文、赤外天文、電波天文、太陽観測、惑星探査と幅広く紹介された。国際会議と日程が重なったために、核融合プラズマ関連の

講演が少なかったのは残念であったが、次回以降も「プラズマ計測」をキーワードに活発な議論と技術交流が図られることを期待する。

- 宇宙天気・太陽風・磁気圏構造 (文: 寺田 直樹)
本セッションでは、従来の宇宙天気の枠組みを超える宇宙生存環境学に関する研究が大きなテーマとなった。太陽地球環境の超新星爆発への応答、太陽活動の長期変動、宇宙線変動、太陽活動に起因する惑星大気の安定性問題などが取り上げられ、また、宇宙環境における生命関連物質の起源・進化・生存可能領域などの通常の宇宙天気セッションの内容を大きく超える講演が行われた。太陽風と磁気圏構造に関しては、太陽光球における MHD 波動の発見、活動領域における磁場診断、コロナ温度構造、惑星間空間や磁気圏内の低周波プラズマ波動の統計解析、磁気プラズマセル、内部磁気圏のリングカレントモデリング、磁気圏型配位におけるプラズマ閉じ込めに関する発表があり、特に低周波現象について、観測、実験、理論、シミュレーションからの多側面のアプローチが紹介された。今回は SGPSS が世話役ということもあり、SGPSS と天文の学際分野である本セッションを設定したが、物理からの参加者にとっては新鮮な話題であったとの好評を得た。

国際学術交流若手派遣報告

越田友則

私の研究では近年その存在が明らかになった木星デカメータ (DAM) 電波 L-burst (L: long, $\Delta t =$ 数 s- 数 h) 微細時間モジュレーション現象が木星磁気圏内の物理現象と関係があるのではないかと考察、従来フランス・ウクライナの大規模観測所で使用されている WFR (waveform receiver) が 1-40 MHz が放射周波数である DAM の RF を取得するため数 s 毎の準連続観測が可能なのに対し 2 MHz の観測帯域制限を実施することにより 12 h 以上連続観測が可能なる WFR を開発、2008 年 6 月 4 日 Io-A、東北大学飯舘観測所における DAM 観測において RH-ch、観測帯域 21-23 MHz で背景 L-burst 放射を 5 MHz/s の負のドリフトレートを持つ現象が抑制する現象

(slow-drift shadow event, SDS) が一度若しくは二度急激にドリフトレートを変化させると、38分後同一と考えられる現象が7分毎に4回それぞれ3-10 sの継続時間でダイナミックスペクトル上で波状にモジュレーション (Wave modulations, WMs) を起こすのを観測した。WMsのモジュレーション周波数を解析した結果、2.5-5 Hzを基底のモジュレーション周波数として奇数共鳴の第一・第二高調波を持つことが分かった。SDSとWMsの特徴はそれぞれ近年DAM放射域で存在が確認されている $E_{||}$ (Δn)と I_o plasma torusを通過する木星磁力線上にトラップされているAlfvén波の特性周期5-7 min並びにSu et al. [2006]で推定された木星IAR (Ionospheric Alfvén resonator)の共鳴周波数・高調波と一致する。結果これまでS-burst (S: short, Δt = 数10 ms-数100 ms)のモジュレーションによって示唆されていた木星IARの存在を私が考案した新しい手法であるL-burst微細時間モジュレーションの観測によっても示唆することができた。

今回派遣されたEGU General Assembly 2010ではJoint sessionとして惑星電波の地上観測・探査機による観測を専門とするPT5.6/ST7.3 Planetary, Solar and Heliospheric Radio Emissionsが新たに加わりフランス・ウクライナの大規模観測所でDAM地上観測を行っているグループを含めヨーロッパで惑星電波の観測的研究を行っている研究者達と直接会う機会が出来た。Joint sessionによる小さなセッションであったためポスター発表にも関わらず本セッションのConvener並びにCo-ConvenerでありDAM研究では著名なP. H. M. Galopeau, M. Y. Boudjada並びにA. Lecacheuxに口頭にて発表を聞いていただいた。

今回多くの惑星研究に関するポスター発表が他のセッションにおいても行われていたためポスターを中心に発表を見て回ったがアメリカで研究を行っている中国人研究者の研究に優れた内容のものが多く見受けられたのが印象的であった。

海外で自分と同様な内容の研究活動を行っている著名な研究者並びに海外の研究者が行っている最新の研究内容に接する貴重な機会を作っていた国際学術交流若手派遣事業に改めて感謝申し上げる。

グローバル地磁気観測分科会の 閉会について 湯元 清文

SGEPSS グローバル地磁気観測分科会は、第19期日本学術会議地球電磁気研連の地磁気観測小委員会と協働して国内外の活動を行ってきた。特に、IAGAの第5分科会で行われている第11回IAGA地磁気観測国際観測データ処理技術会議地磁気観測WS2004を我が国の柿岡地磁気観測所に初めて誘致し、2004年11月9-17日に成功裏に開催することができたことは、我が国の地磁気観測関係者の努力と成果の結晶を集約できたものと自負できるものである。

日本学術会議の体制が第20期から大幅に改革され、地球電磁気学研連は消滅し、それに伴い国際活動の窓口を無くしたSGEPSS グローバル地磁気観測分科会は、その後の分科活動について議論した結果、以下の結論と課題に整理された。SGEPSS グローバル地磁気観測分科会

開催日時：2007年9月29日(土) 12:15-13:00

開催場所：第122回SGEPSS学会A会場

参加者：家森、國武、河野英昭、小島、佐藤夏雄、(塩川)、能勢、宗像、湯元、渡部重十、亘

1. 分科会について

「SGEPSS グローバル地磁気観測分科会」の廃止

理由：宇宙線やレーダー観測など地上観測の多様化により地磁気観測に特化した分科会では対応できなくなっている。

2. 「グローバル地上STP観測分科会(仮称)」

創設の検討

設置目的：

1. 国内各機関の地上観測の連携や調整をはかる
 2. 国際的な動きを考慮した国内地上観測のロードマップの作成
 3. 学会として予算獲得のサポート
3. IHYのようなグラスルーツ的な国際的研究プロジェクトへの対応
 1. 学会に窓口が必要?
 2. 分科会から学会、各研究機関、学術会議等への働きかけ
(受け皿となる分科会が必要?)

これまでの関係者との議論や国内外の状況変化を考慮した結果、懸案であった2.の「グロー

バル地上STP観測分科会(仮称)」の創設と
3. のIHY/ISWIのようなグラスルーツ的な国際的研究プロジェクトへの対応については、第20,21期日本学術会議地球惑星科学委員会国際対応分科会のSTPP小委員会の活動のひとつとして対応できる状況になったことから、1.の「SGEPSSグローバル地磁気観測分科会」の閉会をここに正式に報告するものである。

以上のとおりですが、これまでのSGEPSS会員皆様のご指導やご協力に対して、心より御礼を申し上げます。

宇宙天気研究会の閉会について

丸橋克英

このたび標記分科会を閉会することになりましたので、報告いたします。本分科会は、太陽地球間の諸現象を宇宙天気としてとらえ、総合的に研究するために、関連分野間の研究交流の場になることを目的に発足しました。しかしながら、初期に数回の研究会を開催した後に活動が停滞し、結果として長年にわたって休眠状態を続けておりました。このたび、SGEPSS運営委員会の意向を踏まえ、分科会の今後について検討した結果、「宇宙天気研究会」を閉会するという結論に至り、運営委員会の承認を受けました。

閉会の主たる理由は、分科会発足から現在に至るまでの間に、宇宙天気はすでにSGEPSSやJpGU(日本地球惑星科学連合)でレギュラーセッションとして定着しており、分科会を継続する必要性がなくなったことです。特に、JpGUにより日本天文学会の太陽研究グループとの交流という当初の大きな目的が実現しています。あえて閉会の第二の理由をあげるとすれば、宇宙天気は研究範囲が広すぎて、分科会活動には適していなかったのではないかということです。このことが、第一の理由と相まって、分科会活動を休眠状態にさせてしまったように思われます。研究分野間の交流は、今後も重要な課題ですが、交流の範囲を特定の境界領域に限定したり、活動期間を定めたりするなど、もう少し絞った形で進めるとより効果的なのではないかと思えます。

最後に、本分科会の閉会にあたり、これまで

ご支援をいただいたSGEPSS内外の関連研究者の方々に厚く御礼申し上げます。

金星の科学分科会 (金星研究サークル) 活動報告

高橋幸弘、大月祥子

本分科会は、学会横断的に金星に関わる情報交換などを行うことを目的として、「金星研究サークル」の取りまとめ役として活動をしてきました。2008年度以降は研究分野拡大の実態に合わせて「惑星研究サークル」と通称しており、近日中に分科会の正式名称変更を申請の予定です。また、分科会代表者の若手への交替を検討しております。報告に間が空いてしまい恐縮ですが、連合大会時のミーティング/懇親会を中心に継続的に活動しており、あかつきを始めとする金星研究及び広く惑星研究に携わる研究者と学生のコミュニケーション強化に貢献してきました。過去4年間の連合大会期間における集会について、最近の開催状況を以下にまとめます。開催回毎に若干異なりますが、活動報告を口頭で行う、または印刷物としてまとめて配布する等の形で、情報交換を行っています。

2007年度 5月20日(日)

参加者： 教員・スタッフ14名、学生17名
を含む40名以上。

2008年度 5月28日(水)

参加者： 41名

渡部重十さんの田中館賞受賞報告など

2009年度 5月17日(日)

参加者： 約70名

活動報告者：池田恒平さん(東大・気候システムセンター)、川村太一さん(東大・宇宙研)、豊田丈典さん(東大・地震研)、佐藤隆雄さん(東北大)

2010年度 5月27日(木)

参加者： 約50名

MUレーダー25周年記念 国際シンポジウムの案内 山本 衛

MUレーダーは1984年に滋賀県甲賀市信楽町に完成した大型大気観測用レーダーです。全国・国際共同利用研究施設として今日まで活躍を続け、25周年を迎えました。京都大学生存圏研究所では、これを記念して国際シンポジウムを開催致しますので、お知らせいたします。

記

MUレーダー25周年記念国際シンポジウム

— 第156回生存圏シンポジウム —

日時:平成22年9月2日(木)午後～3日(金)

場所:京都大学宇治キャンパス 宇治おうばくプラザ

WEBページ http://www.rish.kyoto-u.ac.jp/mu_25th_sympo/

問合せ先:mu-sympo@rish.kyoto-u.ac.jp

立教大学理学部教員公募

立教大学では下記の通り、理学部物理学科・大学院理学研究科物理学専攻に所属する教授または准教授1名を公募致しますので、貴関係各位に御周知頂くとともに、適任者の応募について、よろしくお取り計らい下さいますようお願い申し上げます。

記

1. 公募人員: 教授または准教授、1名
2. 専門: 地球大気圏・磁気圏を含めた太陽系惑星科学分野で、飛翔体ならびに地上観測・実験を通して研究を進めている方
3. 担当科目: 物理学科専門科目、大学院物理専門科目、ならびに全学共通カリキュラムの自然科学系分野科目、卒業研究、大学院生の研究指導
4. 着任時期: 2011年4月1日
5. 任期: なし(定年は65歳)
6. 応募資格: 博士の学位を有する方

7. 公募締切: 2010年8月26日(木)(必着)
8. 提出書類: (1) 履歴書(連絡先、E-mailアドレス等を明記すること)
(2) 研究業績リスト(査読誌、その他に分割すること)
(3) 主要論文5編以内の別刷り(コピー可)
(4) 競争的資金導入実績リスト(特許等の実績も含んでよい)
(5) 研究業績の概要(2000字程度)
(6) 今後の研究・教育の抱負(1500字程度)
(7) 照会可能な方2名の氏名・所属・連絡先(電話、E-mailアドレス等)
9. 書類提出先: 〒171-8501 東京都豊島区西池袋3-34-1 立教大学理学部物理学科
田中 秀和
10. 問い合わせ先: 同上 北本 俊二
電話 (03)3985-2419、
E-mail: kitamoto@rikkyo.ac.jp
11. その他: 封筒に「応募書類(太陽系惑星科学)在中」と朱書きし、簡易書留で送付して下さい。応募書類は原則として返却しません。必要に応じて面接を行うことがあります。提出していただいた個人情報、教員任用業務、連絡、手続きのためのものであり、他の目的に使用することはありません。

公募や行事のお知らせ

学会向けに公募や行事の案内が来ておりますので、締切あるいは開催の日付順にご紹介いたします。(山本衛)

- (1) 「第54回宇宙科学技術連合講演会」について
内容: 本学会は、(社)日本航空宇宙学会が主催する上記講演会の共催となりましたので、お知らせいたします。
日時と場所: 11月17～19日 静岡県コンベンションアーツセンター「グランシップ」
講演申込: 7月15日締切
問合せ先: (社)日本航空宇宙学会 (Tel:03-3501-0463、<http://www.jsass.or.jp/sputlcom/54ukaren/>)

(2) 文部科学大臣表彰 科学技術賞および若手科学者賞

趣旨：科学技術に関する研究開発、理解増進等において顕著な成果を収めた者について、その功績を讃えることにより、科学技術に携わる者の意欲の向上を図り、もって我が国の科学技術水準の向上に寄与することを目的として、科学技術分野の文部科学大臣表彰を定めています。平成23年度科学技術分野の文部科学大臣表彰受賞候補者の推薦機関からの募集を行います。女性の研究者・技術者の積極的な推薦をお願いいたします。

推薦者：大学・研究機関の長または学会長（メーリングリスト sgepsall にお知らせ済）

締切：7月16日

問合せ先：文部科学省 研究振興局振興企画課 奨励室 海老沼・春日・若旅・阿部
(Tel: 03-6734-4071、http://www.mext.go.jp/b_menu/boshu/detail/1293750.htm)

(3) 藤原セミナー

趣旨：科学技術の振興に寄与することを目的として、2011年1月から2012年12月の間に開催を予定する「藤原セミナー」の申請を受け付けます。

対象分野と援助額：自然科学の全分野、12,000千円以内

応募方法：開催申請者が所属組織長を通じて応募

締切：7月31日（必着）

問合せ先：(財) 藤原科学財団 (Tel: 03-3561-7736、<http://www.fujizai.or.jp>)

(4) 井上リサーチアワード

趣旨：自然科学の基礎的研究で優れた業績を挙げ、さらに開拓的発展を目指す若手研究者（博士の学位取得後9年未満）の独創性と自立を支援する目的で、研究を助成します。

応募方法：自薦（所属長の承諾）

助成金他：1000万円（期間は2年） 3名以内（うち1名以上を女性とする）

締切：7月31日（必着）

問合せ先：(財) 井上科学振興財団 (Tel: 03-3477-2738、<http://www.inoue-zaidan.or.jp>)

(5) 日本学術振興会 育志賞

趣旨：天皇陛下の御即位20年に当たり、社会的に厳しい経済環境の中で、勉学や研究に励んでいる若手研究者を支援・奨励するための事業の資として、陛下から御下賜金を賜りました。これを受けて、我が国の学術研究の発展に寄与することが期待される優秀な大学院博士課程学生を顕彰することで、その勉学及び研究意欲を高め、若手研究者の養成を図ることを目的として、本年度から「日本学術振興会 育志賞」を創設することとしました。

対象：2010年4月1日現在34歳未満の我が国の大学院博士後期課程在学の者

推薦者：1) 大学長推薦、2) 学会長推薦（メーリングリスト sgepsall にお知らせ済）

締切：8月2日（必着）

問合せ先：(独) 日本学術振興会 総務部研究者養成課

(Tel: 03-3263-0912、<http://www.jsps.go.jp/j-ikushi-prize/index.html>)

(6) 井上研究奨励賞

推薦の対象：2007年4月1日～2010年3月1日に博士の学位を取得した35歳未満の研究者。自然科学の基礎的研究において新しい領域を開拓する可能性のある優れた博士論文を提出した研究者。

推薦者：原則として、博士論文の作成を指導した研究者

締切：9月20日（必着）

問合せ先：(財) 井上科学振興財団 (Tel: 03-3477-2738、<http://www.inoue-zaidan.or.jp>)

(7) 猿橋賞

「女性科学者に明るい未来をの会」(1980年創立)は、自然科学の分野で、顕著な研究業績を収めた女性科学者（推薦締切日で50才未満）に、毎年、猿橋賞を贈呈しております。第31回猿橋賞の募集が開始されています。

推薦者：個人・団体、自薦も可

締切：11月30日（必着）

問合せ先：女性科学者に明るい未来をの会
(<http://www.sarunashi.net/index.html>)

井上學術賞候補者の推挙について

井上學術賞は、自然科学の基礎的な研究で特に顕著な業績をあげた50歳未満の研究者に贈られる、権威ある学術賞であります。本学会は、(財)井上科学振興財団より、井上學術賞の推薦団体として認定されております。2010年9月20日(日)を締切として、第27回(2010年度)井上學術賞候補を2名まで推薦する依頼が来ております。下記により、同賞にふさわしい会員を推挙いただきますようお願い申し上げます。

(山本衛)

記

項目：第27回(2010年度)井上學術賞にふさわしい会員の推挙

書類：(財)井上科学振興財団所定の様式

(<http://www.inoue-zaidan.or.jp/>)

提出：運営委員総務・山本衛(yamamoto@rish.kyoto-u.ac.jp)あての電子メールに添付して提出する。

締切：2009年7月23日(日)(必着)

備考：運営委員会にて選考の上、学会長名の推薦書を作成して同財団に推薦いたします。

東レ科学技術賞の推挙と 東レ科学技術研究助成の公募

本学会は(財)東レ科学振興会による東レ科学技術賞と東レ科学技術研究助成への推薦資格を有しています。それぞれについて、受賞候補者の推挙と応募をお願いいたします。(山本衛)

記

書類：(財)東レ科学振興会所定の様式

(<http://www.toray.co.jp/tsf/>)

(申請書用紙は学会(総務)にも届いておりますので、必要な方はご請求ください。)

提出：運営委員総務・山本衛(yamamoto@rish.kyoto-u.ac.jp)あての電子メールに添付して提出する。

締切：2010年8月31日(火)(必着)

備考：運営委員会にて選考の上、学会長名の推薦書を作成して同財団に推薦いたします。

(参考 東レ科学振興会のホームページから)

東レ科学技術賞：理学・工学・農学・薬学・医学(除・臨床医学)関係で、学術上の業績が顕著なもの、学術上重要な発見をしたもの、重要な発明をしてその効果が大きいもの、技術上重要な問題を解決して技術の進歩に大きく貢献したものに對し、科学技術賞(金メダル、賞金5百万円)を毎年2件前後贈呈しています。

東レ科学技術研究助成：国内の研究機関で理学・工学・農学・薬学・医学(除・臨床医学)関係の基礎的な研究に従事し、今後の研究の成果が科学技術の進歩、発展に貢献するところが大きいと考えられる独創的・萌芽的研究を活発に行っている若手研究者に、毎年研究助成金を贈呈しています。研究助成金総額1億3千万円、10件程度、研究の内容によっては1件3千万円程度まで助成します。

国際学術交流若手派遣と 国際学術交流外国人招聘の公募

表記2つの援助について、次回の申請締切日が決まりましたのでお知らせします。応募資格・方法や申請書式については、学会ホームページをご覧ください。(山本衛)

国際学術交流若手派遣：国際学術交流事業の一環として、外国で開かれる国際的な研究集会へ若手の会員が参加するための費用(渡航旅費および滞在費、集会参加費用など)を支援します(略称：若手派遣事業)。可能な限り、実費を精算払いさせていただきます。

国際学術交流外国人招聘：国際学術交流事業の一環として、本学会が主催または共催する研究集会に参加する海外の研究者の来日にかかる費用(旅費及び滞在費、参加費用など)を支援します(略称：海外研究者招聘事業)。可能な限り、実費を精算払いさせていただきます。

どちらの事業も、年4回募集しています。今回の応募締切と、対象となる集会の開催期間は以下の通りです。集会の期間が2つの応募期間にまたがる場合は、日本を出発する予定日をもとに判断してください。

次の応募締切：2010年8月6日（金）
対象となる集会の開催期間：2010年10月1日
～2010年12月31日
（若手派遣について、援助の対称となる主な会議は、AGU fall meeting（12/13～17）アメリカ合衆国です）

なお、今後の応募締切（対象となる集会の開催期間）は以下の通りです。

2010年9月ごろ
（平成2011年1月1日～3月31日）
2011年1月ごろ
（平成2011年4月1日～8月31日）

アンケート調査のお知らせとお願い 男女共同参画提言WG

この度、男女共同参画提言WGでは、学会員のポストドク人数および年齢・性別調査を行うことを計画しています。

ポストドク問題を定量的に議論するために、正確な実数および年齢分布の把握はとても重要です。ぜひ全学会員のご協力をよろしくお願いいたします。

今回、学会員を対象としたポストドク人数および年齢調査を計画したのは、今後の具体的なアクションの基礎資料として、ポストドク人数、年齢、性別等の把握、前回調査からの推移や定量的なデータが必要、というWGの一致した見解に達したためです。このデータから、アカデミックポストへの需要と供給の流れを見積もり、多様なキャリアパスの必要性の検討や提言作成に活かすことを考えています。

また、今後も継続して行っていくことで、より正確な会員動向の把握の基礎資料として蓄積し、学会活動の向上へ繋いでいきたいと考えています。

今年の調査については、男女共同参画WGのサ

イトに作成し、秋学会投稿サイトオープンと同時にリンクを張ることを考えています。できるだけ多くの皆様のご協力が必要ですので、是非、ご回答をよろしくお願いいたします。

なお本WGは、2004年5月に発足して以来、若手任期付雇用調査や研究職に関するアンケート調査を行ったり、ポストドク問題をどのように考えて行くか検討してきました。また、理系の学術団体「男女共同参画学協会連絡運営委員会」にも加盟し、連携した活動をしてきました。各学会での男女共同参画に関する取り組みの情報交換、各研究の場における環境設備の向上、学際的ネットワークの構築等を推し進めていくことを目指しています。

学会賞・国際交流事業関係年間スケジュール
積極的な応募・推薦をお願いします。詳細は学会ホームページを参照願います。

賞・事業名	応募・推薦／問い合わせ先	締め切り
長谷川・永田賞	会長	2月28日
田中館賞	会長	8月31日
学会特別表彰	会長	2月28日
大林奨励賞	大林奨励賞候補者推薦委員長	1月31日
学生発表賞	推薦なし／問合せは運営委員会	
国際学術交流若手派遣	運営委員会総務	平成22年度は5月14日、8月6日 後日9月・1月ごろに設定します。
国際学術交流外国人招聘	運営委員会総務	若手派遣と同じ

SGEPSS Calendar

- '10- 7-18 ~ 25 COSPAR 38th scientific assembly (Bremen, Germany)
- '10- 8- 8 ~ 13 2010 The Meeting of the Americas (Foz do Iguacu, Brazil)
- '10- 9- 2 ~ 3 MU レーダー 25 周年記念国際シンポジウム (宇治)
- '10- 9- 9 ~ 11 日本流体力学会 年会 2010 (北海道大学)
<http://www2.nagare.or.jp/nenkai2010/>
- '10- 9-18 ~ 24 20th Electromagnetic Induction Workshop (Giza, Egypt)
<http://www.20emiw.info/>
- '10- 9-22 ~ 26 2010 Asia-Pacific Radio Science Conference (AP-RASC'10) (富山)
- '10-10- 4 ~ 8 5th Alfven conference on plasma interaction with non-magnetized
planets/moons and its influence on planetary evolution (札幌)
- '10-10-30 ~ 11-3 第128回SGEPSS総会・講演会 (那覇)
- '10-12-13 ~ 17 2010 AGU Fall Meeting (San Francisco, USA)
- '10-12 ~ '11-1 SGEPSS 副会長・評議員・運営委員選挙
- '11- 5-22 ~ 27 日本地球惑星科学連合大会 (幕張メッセ国際会議場)

地球電磁気・地球惑星圏学会 (SGEPSS)

会長 津田敏隆 〒611-0011 京都府宇治市五ヶ庄 京都大学生存圏研究所
TEL: 0774-38-3804 Fax: 0774-31-8463 E-mail: tsuda@rish.kyoto-u.ac.jp

総務 山本衛 〒611-0011 京都府宇治市五ヶ庄 京都大学生存圏研究所
TEL: 0774-38-3814 Fax: 0774-31-8463 E-mail: yamamoto@rish.kyoto-u.ac.jp

広報 吉川一朗 (会報担当) 〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1 東京大学
大学院理学系研究科地球惑星科学専攻
TEL: 03-5841-4577 FAX: 03-5841-4577 E-mail: yoshikawa@eps.s.u-tokyo.ac.jp

河野英昭 (会報担当) 〒812-8581 福岡県福岡市東区箱崎6-10-1 九州大学
大学院理学研究院地球惑星科学部門
TEL: 092-642-2671 FAX: 092-642-2684 E-mail: hkawano@geo.kyushu-u.ac.jp

村田功 (会報担当) 〒980-8578 仙台市青葉区荒巻字青葉6-3 東北大学
大学院理学研究科地球物理学専攻
TEL: 022-795-5776 FAX: 022-795-5775 E-mail: murata@pat.gp.tohoku.ac.jp

運営委員会 (事務局) 〒650-0033 神戸市中央区江戶町85-1 ベイ・ウイング神戸ビル10階
(株)プロアクティブ内 地球電磁気・地球惑星圏学会事務局
TEL: 078-332-3703 FAX: 078-332-2506 E-mail: sgepss@pac.ne.jp

賛助会員リスト

下記の企業は、本学会の賛助会員として、
地球電磁気学および地球惑星圏科学の発展に貢献されています。

エコー計測器（株）

〒182-0025

東京都調布市多摩川 1-28-7

tel. 042-481-1311

fax. 042-481-1314

URL <http://www.clock.co.jp/>

日鉄鉱コンサルタント（株）

〒108-0014

東京都港区芝 4 丁目 2-3NOF 芝ビル 5F

tel. 03-6414-2766

fax. 03-6414-2772

URL <http://www.nmconsults.co.jp/>

クローバテック（株）

〒180-0006

東京都武蔵野市中町 3-1-5

tel. 0422-37-2477

fax. 0422-37-2478

URL <http://www.clovertech.co.jp/>

日本電気（株）宇宙システム事業部

〒183-8501

東京都府中市日新町 1-10

tel. 042-333-3933

fax. 042-333-3949

URL <http://www.nec.co.jp/solution/space/>

(有) テラ学術図書出版

〒158-0083

東京都世田谷区奥沢 5-27-19

三青自由ヶ丘ハイム 2003

tel. 03-3718-7500

fax. 03-3718-4406

URL <http://www.terrapub.co.jp/>

富士通（株）

〒261-8588

千葉市美浜区中瀬 1-9-3

富士通（株）幕張システムラボラトリ

tel. 043-299-3246

fax. 043-299-3211

URL <http://jp.fujitsu.com/>

(有) テラテクニカ

〒206-0812

東京都稲城市矢野口 2 番地

tel. 042-379-2131

fax. 042-370-7100

URL <http://www.tierra.co.jp/>

丸文（株）システム営業本部

営業第一部計測機器課

〒103-8577

東京都中央区日本橋大伝馬町 8-1

tel. 03-3639-9881

fax. 03-5644-7627

URL <http://www.marubun.co.jp/>

明星電気（株）装置開発部

〒372-8585

群馬県伊勢崎市長沼町 2223

tel. 0270-32-1113

fax. 0270-32-0988

URL <http://www.meisei.co.jp/>